



競技

▲風を受けないように、列を作って滑る少年男子10,000m決勝



▲表彰を受けた宮地慶樹君(武並町)



▲「がんばれ～」の声援を送る子どもたち

少年男子、少年女子の種別ごとに行われまして。市内からも、14人の選手が出場し活躍。中でも、少年男子1500mに出場した宮地慶樹君(武並町)は、見事優勝に輝きました。また成年男子500mで田口和征さん(岩村町)、少年男子500mで平出悠斗君(上矢作町)がそれぞれ第5位、第7位に入賞。伊藤優子さん(三郷町)と上田奈津希さん(岩村町)が出場したリレー少年女子2000mは、第5位の入賞でした。

4日とも天候に恵まれ、会場には、連日多くの観覧者が訪れて、選手に熱い声援を送りました。入場者は、開始式を合わせると目標の1万人を大きく上回る3万3000人と、大盛況でした。



▲リンクの間近の観客席で選手を応援



開始式

▲選手の代表で宣誓する田口和征さん

選手代表の宣誓は、古田肇知式をはじめ、張富士夫日本体育協会会長や橋本聖子日本スケート連盟会長らを迎え、盛大に行われました。



国体スピードスケート競技

入場者は目標上回る3万人
ぎふ清流国体に弾み

第67回国民体育大会「ぎふ清流国体」冬季大会スピードスケート競技会が1月28日から31日までの4日間、恵那スケート場で開催されました。当市では47年ぶりの開催となった国体。入場者数は、前日の27日に恵那文化センターで行われた開始式と合わせると3万人を超え、目標の1万人を大きく上回りました。この競技会の盛況ぶりは、ぎふ清流国体の最初の競技として、弾みを付けました。

開始式で田口さんが宣誓

ぎふ清流国体の最初の競技として始まったスピードスケート競技。1月27日には、冬季大会スピードスケート競技会の開始式が恵那文化センターで開催され、開幕となりました。開始式は、古田肇知式をはじめ、張富士夫日本体育協会会長や橋本聖子日本スケート連盟会長らを迎え、盛大に行われました。

宮地君が準優勝に輝く

競技は、1月28日から4日間、恵那スケート場で開催されました。国内で最も西に位置する当スケート場。全国から選手が集まり、スピードや技を競いました。競技種目は、500mや1000m、1500mなど7種目。成年男子と成年女子、

誓では、田口和征さん(岩村町)が「多くの人に支えられ、スケートを続けることができている。その喜びをかみしめ感謝の気持ちを忘れず、全身全霊で正々堂々競技することを誓います」と力強く宣誓しました。

歓迎アトラクションでは、体操のお兄さんとおなじみの佐藤弘道さんと一緒に、子どもたちが、ミナモダンスを披露しました。



▲体操のお兄さんと一緒にミナモダンス



▲日本スケート連盟会長の橋本聖子さん



▲県旗入場に合わせ手を振る岐阜県選手団



市民

▲ボランティアの皆さんが来場者に飲み物でおもてなし



自慢の味を賞味あれ



混み合っ中でのみ分別を補助



選手や監督に温かい豚汁を提供



ミニモのおもちゃ作りを指導



井上あずみさんと親子が歌を熱唱



競技を運営する大会役員



小学生が書いた他県の応援旗

国体の盛り上げに一役

会場では、一層国体を盛り上げるため、多くのボランティアや市民らが活躍しました。スケート場外に設けられたテントハウスでは、えなハヤシや寒天ラーメン、五平餅などを取りそろえた市内13地域の味自慢など「グルメ祭り・バサー」を開催しました。多くの方に恵那の自慢の物を食べてもらおうと、朝早くから準備。昼時になると、テントの中はあふれんばかりの人となり、用意した食品は、売り切れが続出するほどでした。休憩所では、ボランティアの皆さんが温かいコーヒーや紅茶、お茶を選手や監督、観客などに振る舞い

した。気温が低いめか、温かい飲み物には、長い列ができていました。スケート会場では、寒さをしのぐ敷物や選手を応援する応援旗を配る係、表彰式で補助をする係、ごみを分別して片付ける係など、多くのボランティアが活躍しました。駐車場でも、会場が混み合わないよう、消防団員が交通整理をしました。ぎふ清流国体のテーマソングは「はばたけ、未来へ」。1月28日には、歌手の井上あずみさんと一緒に子どもや親がこの歌を歌い、会場を盛り上げました。また大会中、国体のキャラクターの「ミニモ」と一緒に踊る「ミニモダンス」にも、たくさん子どもたちが参加しました。

市内の学校の子どもたちも、大会の盛り上げに一役買いました。全国からの選手を歓迎するために、たくさん立てられたのぼり旗。小学生が選手を応援するメッセージを書きました。事前に都道府県の特徴や特産品などを調べてデザインしたり、絵を描いたりして、それぞれ工夫がされていました。その他、スケート競技の役員や警備員など多くの市民が、競技会の盛り上げに貢献しました。ボランティアや役員など、競技会に協力した方は、4日間で延べ約1000人になります。

選手



かずゆき 田口和征さん (岩村町)

選手宣誓は大会より緊張

開始式に選手代表で宣誓をしました。予想よりも盛大な式だったので驚きました。この大会に出ることよりも、緊張しましたが、練習通りに終わり、胸をなで下ろしました。

第5位に入賞した成年男子500mでは、普段通りの滑りができました。それを後押ししてくれたのが、みんなの声援です。この大会よりも素晴らしい大会を経験できました。これからもさらに上を目指して頑張りたいです。



▲成年男子500mで滑走する田口選手

大会の成功でホッとした



▲選手の受け付けをする競技役員

競技役員



ようこ 樋口葉子さん (岩村町)

国体では、競技役員として参加しました。恵那市では、スケートの国体開催は初めてのことにもあり、準備段階のうちから、道具の確認やルールの再確認など、入念に行っていました。当日は、朝一番に来て、役員の受け付けを行ったり、選手の招集を行ったりしました。国体を迎える前は不安でいっぱいでしたが、大きなトラブルもなく無事成功させることができました。

応援



たけひろ 市川雄浩君 (三郷小学校6年)

レース見て勇気ももらった

スタンドから競技の応援を一生懸命しました。スピードスケートの観戦は、去年のジュニアの全日本大会を見て以来2回目です。今回の競技は、選手も観客も多く、とても迫力がありました。転んだ時でも、すぐに起き上がってレースを一生懸命やっている姿を見て、勇気ももらったと感じました。東北の選手も滑っていて、早く復興するのいいなと思いました。



▶市内の小中学生が、大型バスで代わる代わる来場

スタを手送
タを旗選
でて援
応ドっ声
振る

国体を盛り立てたく参加



▲来客が多く飲み物を出すのは大忙し

ボランティア



みさこ 磯村美砂子さん (長島町)

ボランティアで、選手や来場者にコーヒーやお茶などの飲み物を出す係を2日間やりました。恵那市で国体をやるの聞いて、みんな盛り立てていきたいと思い、ボランティアに手を上げました。競技の休憩の時には、すくなくたくさんの方が並び、大忙しで大変でした。でも、人が少なくなつた時には、選手や監督さんと「寒いですがね」とか「またゆっくり恵那に遊びに来てくださいね」などと話すことができました。